

1 学校運営の中期目標

現状と課題

全国学力・学習状況調査（以下、「学力調査」と表す）やチャレンジテストにおいて、本校の各項目平均正答率は大阪府・市の平均にも及ばず、学力の向上が最大の課題である。一方、全国体力・運動能力、運動習慣等調査（以下、「体力調査」と表す）においては、部活動や学校行事などを通した各種の取組により、とりわけ男子については全国平均を上回る種目が数多くある。また、これまででも安心・安全宣言を掲げ、信頼される学校づくりに取り組んできたが、いじめや暴力行為等が断続的に発生しており、学級内や学年での生徒同士の人間関係を客観的に把握する必要がある。そこで、昨年に引き続い「hyper-QU」テストなどを用いて集団の特性を確認するとともに、今年度より始まっている特別の教科「道徳」を推し進めながら、効果的な道徳心・社会性の成長を促す取組を進めていかなければならない。

中期目標

子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現

- 平成 33 年度の学力調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、肯定的な回答をする生徒の割合を、9割5分以上にする。【今年度…98.1%】

心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上

- 平成 33 年度の学力調査における活用に関する問題の正答率 8割以上の生徒の割合を、平成 28 年度（18.9%）より 5 ポイント向上させる。【今年度…24.1%】

2 中期目標の達成に向けた年度目標

子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現

全市共通目標

- 平成 31 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95%以上にする。【30 年度 89%】【最終…100% 1 年 10+6、2 年 2+3、3 年 4+0】
- 平成 31 年度の校内調査における「学校の規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を 95%以上にする。【30 年度 98%】【最終…98.7%】

- 平成 31 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒数を前年度より減少させる。【30 年度 13%】【最終…0%】

- 平成 31 年度末の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を前年度より減少させる。【30 年度 2.6%】【最終…0.4% = 2 名（1 年 0 名、2 年 1 名、3 年 1 名）】

学校の年度目標

- 今年度末の校内調査における「命や人権の尊さについて考えたことがありますか」の項目について、肯定的な回答をする生徒の割合を年度当初よりも増加させる。

- 【30 年度 71%】【最終…81%】

- 今年度末の校内調査における「校内で暴力を受けたことがありますか」の項目につい

○校内調査における「学級生活満足群」（学級内での生活に十分満足している生徒）の割合を40%以上にする。（全国平均37%）【最終…1年55%、2年49%、3年48%】○

心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上

全市共通目標

○平成31年度のチャレンジテストにおける標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。

〔72期生（現3年）：30年度 92.0〕【最終…91.8】×

〔73期生（現2年）：30年度 90.8〕【最終…3教科93.0、5教科93.4】○

〔74期生（現1年）〕【93.3、※2教科（市）…106.6】

○平成31年度のチャレンジテストにおける得点が府平均の7割に満たない生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より3ポイント減少させる。

〔72期生（現3年）：30年度 28.8%〕【最終…33.1%】×

〔73期生（現2年）：30年度 30.1%〕【最終…29.9%】×

〔74期生（現1年）〕【27.7%】

○平成31年度のチャレンジテストにおける得点が府平均を2割以上上回る生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より3ポイント増加させる。

〔72期生（現3年）：30年度 27.0%〕【最終…24.1%】×

〔73期生（現2年）：30年度 22.6%〕【最終…26.4%】○

〔74期生（現1年）〕【20.3%】

○平成31年度末の校内調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。〔30年度 80%〕【最終…84.5%】○

○平成31年度の体力調査において、特に課題である「50m走」の平均の記録を、前年度より向上させる。

〔30年度 男子8.07 女子9.03（秒）〕【最終…男子8.24 女子9.06（秒）】×

学校の年度目標

○中学校3年生での英検3・4級程度の英語力を有する生徒の割合を昨年度以上にする。

〔30年度 88.2%〕【最終…89.9%（英検IBA）読・聞 365・347→383・365】○

○平成31年度の体力調査における体力合計点（T得点）を過去3年間の推移において向上させる。〔29年度 男子51.0 女子49.4，30年度 男子51.8 女子47.8〕

【最終…男子48.1 女子48.8】△

以下 淀川区役所連携事項

○学力調査における、「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」、「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」の項目における肯定的な回答の割合を、それぞれ75%以上、90%以上にする。【最終…寝ている83.6%、起きている94.9%】○

○年度末校内調査における、「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」、「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」の項目における肯定的な回答の割合を、それぞれ65%以上、85%以上にする。【最終…寝ている85.5%、起きている93.3%】○

○年度末校内調査における、「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」、「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」の項目における肯定的な回答の割合を、それぞれ 65%以上、85%以上にする。【最終…寝ている 85.5%、起きている 93.3%】○

○中学校 1 年生での漢検において、各級受験生の合格率及び 5 級以上の合格者数を昨年の 1 年生より向上させる。

〔30 年度 54/153→35.3%〕【最終…52/157→33.1%】×

3 本年度の自己評価結果の総括

体力調査の結果、男女ともに一部全国を上回る項目もあるものの全体的に未だ伸びる余地がある。ただ、秋の体育大会や 1 月のマラソン大会など、大きな体育的行事では年々盛り上がりを見せ、運動に対する興味関心が高まってきていることは感じられる。部活動については、週 5 日制の本格実施に伴い活動時間が制約されてはいるが、その分活動内容を精選してスポーツに対する関心・意欲を高める取り組みができている。

遅刻数の減少という目標については達成することができた。常習者数も減少しており、睡眠指導、食育などの取組や朝の登校指導を継続していることによる成果が出ているものと思われる。遅刻数の削減には家庭の協力が不可欠であるにも関わらず、特定の家庭については協力を仰ぐことが難しいという側面がある。しかしながら、今後も家庭・本人への啓発を粘り強く継続していく。

読書については、元気アップボランティアの協力により、学校図書館の週 7 回開館を達成できている。また、朝、正門前に図書館開館の案内掲示を出すことにより、来館者を増やすよう努めている。これらの取組により、2 年生では読書を好まない者の数は減っており、目標を達成することができた。

授業では、めあての設定、協働学習の導入、振り返り、ICT 活用などを行うとともに、相互授業参観を積極的に取り入れ、教員の授業力向上に努めている。取組としては徐々に進みつつあるものの、最終目標である学力向上に関しては明確な成果が出ているとまでは言えない。今後も、主体的・対話的で深い学びの取組を推進し、子どもたちが楽しいワクワクする授業の創造を推進していく。

(様式2・最終反省)

大阪市立十三中学校 平成31年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	進捗状況
子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現	
全市共通目標	
○平成31年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。 〔30年度 89%〕【最終…100% 1年10+6、2年2+3、3年4+0】○ ○平成31年度の校内調査における「学校の規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を95%以上にする。〔30年度 98%〕【最終…98.7%】○ ○平成31年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒数を前年度より減少させる。〔30年度 13%〕【最終…0%】○ ○平成31年度末の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を前年度より減少させる。〔30年度 2.6%〕【最終…0.4%＝2名（1年0名、2年1名、3年1名）】	
学校の年度目標	B
○今年度末の校内調査における「命や人権の尊さについて考えたことがありますか」の項目について、肯定的な回答をする生徒の割合を年度当初よりも増加させる。 〔30年度 71%〕【最終…81%】○ ○今年度末の校内調査における「校内で暴力を受けたことがありますか」の項目について、総数を50件以内に抑える。【最終…3+1=4件】○ ○校内調査における「学級生活満足群」（学級内での生活に十分満足している生徒）の割合を40%以上にする。 (全国平均37%)【最終…1年48%→55%、2年47%→49%、3年44%→48%】○	
心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上	
全市共通目標	
○平成31年度のチャレンジテストにおける標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。 〔72期生（現3年）：30年度 92.0〕【最終…91.8】× 〔73期生（現2年）：30年度 90.8〕【最終…3教科93.0、5教科93.4】○ 〔74期生（現1年）〕【93.3、※2教科（市）…106.6】 ○平成31年度のチャレンジテストにおける得点が府平均の7割に満たない生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より3ポイント減少させる。 〔72期生（現3年）：30年度 28.8%〕【最終…33.1%】× 〔73期生（現2年）：30年度 30.1%〕【最終…29.9%】×	

[74期生（現1年）]【27.7%】

○平成31年度のチャレンジテストにおける得点が府平均を2割以上上回る生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より3ポイント増加させる。

〔72期生（現3年）：30年度 27.0%〕【最終…24.1%】×

〔73期生（現2年）：30年度 22.6%〕【最終…26.4%】○

[74期生（現1年）]【20.3%】

○平成31年度末の校内調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。〔30年度 80%〕【最終…84.5%】○
○平成31年度の体力調査において、特に課題である「50m走」の平均の記録を、前年度より向上させる。

〔30年度 男子 8.07 女子 9.03（秒）〕【最終…男子 8.24 女子 9.06（秒）】×

学校の年度目標

○中学校3年生での英検3・4級程度の英語力を有する生徒の割合を昨年度以上にする。

〔30年度 88.2%〕【最終…89.9%（英検IBA）読・聞 365・347→383・365】○

○平成31年度の体力調査における体力合計点(T得点)を過去3年間の推移において向上させる。〔29年度 男子 51.0 女子 49.4， 30年度 男子 51.8 女子 47.8〕

【最終…男子 48.1 女子 48.8】△

以下 淀川区役所連携事項

○学力調査における、「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」、「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」の項目における肯定的な回答の割合を、それぞれ75%以上、90%以上にする。【最終…寝ている 83.6%、起きている 94.9%】○

○年度末校内調査における、「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」、「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」の項目における肯定的な回答の割合を、それぞれ65%以上、85%以上にする。【最終…寝ている 85.5%、起きている 93.3%】○

○中学校1年生での漢検において、各級受験生の合格率及び5級以上の合格者数を昨年の1年生より向上させる。

〔30年度 54/153→35.3%〕【最終…52/157→33.1%】×

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策6 健康や体力を保持増進する力の育成】</p> <p>○生徒の安全を確保するとともに、各種の運動用具・運動器具を導入し、体育大会をはじめ各種の学校行事に、室内オリンピックなどの楽しみながら体力向上をめざすことができる取組を積極的に取り入れる。</p>	B
<p>指標</p> <p>体力調査において、全国平均を上回る種目を半分以上にする。</p> <p>【男子1種目（握力）、女子2種目（握力、上体起こし）】×</p>	

取組内容②【施策6 健康や体力を保持増進する力の育成】
○部活動の時間が制約される中、日常的な運動の機会を減少させることなく、基礎的な体力や運動能力の向上をめざす。

A

指標

部活動における退部者を5%以内に抑える。【最終…0.4% 1年2名/465】○

取組内容③【施策6 健康や体力を保持増進する力の育成】

○区役所の「子どもの睡眠習慣改善支援事業（ヨドネル）」とも連携を図りながら、遅刻を減らすよう日常的な生徒指導を継続して基本的生活習慣の確立をめざす。

B

指標

- ・遅刻の年間のべ総数を前年度以下に抑える。
〔30年度1月末総数 2,070日〕【1月末集計】
- ・遅刻が年間20日以上の生徒の数を前年度以下に抑える。
〔30年度1月末 25人〕【1月末集計】

取組内容④【施策7 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】

○小中連携図書貸し出し事業の実施

○「読み聞かせ」の実施

○図書室開館と自主学習センター機能の充実

(以上元気アップ事業と連携)

○淀川区学力向上支援事業「漢字名人育成計画」を活用し、中学校1年生を対象に漢字能力検定受験に向けて目標を明確にし、計画的に学習に取り組むことで学習意欲を高め、着実な学力向上に努める。(区役所と連携)

B

指標

- ・校内調査(年度末)において「読書は好きではありません」と回答する生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より減少させる。
〔72期生(現3年)：30年度 33%〕【最終…37%】×
〔73期生(現2年)：30年度 37%〕【最終…32%】○
〔74期生(現1年)〕【最終…37%】
- ・漢字能力検定受検に向けた漢字の演習問題を3回行う。【実施済み】○

取組内容⑤【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】

○学びサポーター等を活用し、朝学習・朝読書・テスト前補習・長期休業中の家庭学習 等を充実させる。

B

指標

平成31年度のチャレンジテストにおける標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。

- 〔72期生(現3年)：30年度 92.0〕【最終…91.8】×
- 〔73期生(現2年)：30年度 90.8〕【最終…3教科93.0、5教科93.4】○
- 〔74期生(現1年)〕【93.3、※2教科(市)…106.6】

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

体力調査の結果、男女ともに一部全国を上回る項目もあるものの全体的に未だ伸びる余地がある。ただ、秋の体育大会や1月のマラソン大会など、大きな体育的行事では年々盛り上がりを見せ、運動に対する興味関心が高まっていることは感じられる。部活動については、週5日制の本格実施に伴い活動時間が制約されてはいるが、その分活動内容を精選してスポーツに対する関心・意欲を高める取り組みができている。

遅刻数の減少という目標については達成することができた。常習者数も減少しており、睡眠指導、食育などの取組や朝の登校指導を継続していることによる成果が出ているものと思われる。遅刻数の削減には家庭の協力が不可欠であるにも関わらず、特定の家庭については協力を仰ぐことが難しいという側面がある。しかしながら、今後も家庭・本人への啓発を粘り強く継続していく。

読書については、元気アップボランティアの協力により、学校図書館の週7回開館を達成できている。また、朝、正門前に図書館開館の案内掲示を出すことにより、来館者を増やすよう努めている。これらの取組により、2年生では読書を好まない者の数は減っており、目標を達成することができた。

授業では、めあての設定、協働学習の導入、振り返り、ICT活用などを行うとともに、相互授業参観を積極的に取り入れ、教員の授業力向上に努めている。取組としては徐々に進みつつあるものの、最終目標である学力向上に関しては明確な成果が出ているとまでは言えない。今後も、主体的・対話的で深い学びの取組を推進し、子どもたちが楽しいワクワクする授業の創造を推進していく。

次年度への改善点

いじめについては、早期発見・早期解決に努めることができておらず、今後も引き続き取組を進める。暴力行為の数も減少している。学力については教科により明確な向上が見られる状態になってきている。若手教員がますます増える中で、今後もその授業力向上に注力していく。研究授業などを多用することにより、地道な取組を継続する。

学力については明確な向上が見られない「頭打ち」の状態がつづいている。若手教員がますます増える中で、今後はその授業力向上に注力する。公的な研修制度を活用するとともに、研究授業などのさらなる充実を図るなど、地道な取組を継続する。また、ICTなどの学習環境は少しづつ整備されてきており、有効活用していく。

体力面では、基礎体力の底上げが課題である。授業には真面目に取り組んでいるが、さらなる体力向上には、部活動を含めた自主的な体力づくりを推進していため、当面は授業をきっかけとして運動に向かう意欲を喚起する啓発を行う。

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標

進捗
状況

取組内容①【施策2 安全で安心できる学校、教育環境の実現】

○「hyper-QUテスト」(もしくは校内調査)を実施することにより、学級内の人間関係を精査した上で、面談や家庭訪問、その他、教員が生徒と触れ合う時間を確保し、効果的にいじめの予防、早期発見、早期対応を行う。

指標

C

各回校内調査において、いじめの申告数を5件以内に抑える。

【最終 7件】×

取組内容②【施策3 道徳心・社会性の育成】

○保護者・地域とのコミュニケーションの機会を充実させるとともに、物事に感動したり、他者を思いやることの大切さを実感する場面を創出する。

指標

学校管理下における生徒と保護者・地域ボランティアとの直接交流の場を、のべ50回確保する。【54回】○

B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

いじめについては、早期発見・早期完全解決に努め、今後も引き続き取組を進める。「暴力は許されない」という指導を徹底した結果、件数は減少傾向にある。「安全で、安心できる学校」づくりに努めていく。

不登校については、「増やさない」という点についての目標は達成したもの、実数が無くなったわけではなく、引き続き働きかけが必要である。

体育大会や文化祭など、保護者・地域に協力を得る行事の内容が年々充実してきており、高い評価をいただけようになってきている。また、保護者・地域との直接交流の場を持つことについては目標に達しており、順調に取組が進んだ。地域の方々と交流することで、学校外でも大人の目が行き届くようになり、全体としては落ち着いた状態を維持することが可能となっている。

次年度への改善点

今年度は、生徒の特性から生じる人間関係上のトラブルが激減した。特に暴力による不満解消を図る者が減った。生徒の特性に対応するため、「くすのき学級」(特別支援学級)への入級をすすめ、複数の教員で指導に当たるなどの工夫が成果を發揮してきており、次年度に向けても継続していく。

不登校については、少なくとも学校生活に由来するケースについては、生徒・家庭への働きかけを行い、全力でその改善を図る。

道徳心・社会性の育成については、保護者・地域とのふれあいの機会を持てるように時間確保を行い、さまざまな形態を模索する。

こうした動きの中で、「子どもが安心して成長できる安全な社会づくり」を目標に、引き続き取組を進める。携帯端末に関わる人間関係上のトラブルを防ぎたい。

令和元年度 学校関係者評価報告書

大阪市立十三中学校 学校協議会

1 総括についての評価

本年度の学校運営全体を通して、安定した教育活動を展開することができた。特に学校ホームページや保護者メールでの情報発信は学校を公開するという面で非常に大きな効果があった。地域や保護者は安心して学校に子どもたちの成長を委ねることができる。

生徒の生活面において個別の課題は種々あるものの、学校総体としては落ち着いた状態を維持することができており、体育大会や文化発表会などの行事で子どもたちが活躍する姿を見ることができた。

学力向上においては、継続的に学力向上に取り組む必要がある。小学校との連携の強化を基盤とし、読書活動の充実、教師の授業力の向上、地域の力を活用しながら学習習慣をつける取り組みが必要である。

道徳心・社会性の育成については、アンケート結果にもあるとおり、高い規範意識を醸成する取り組みができている。以前（平成25年度）の学校協議会で意見が出ていた学校生活におけるアンケート調査を実施して、満足度などを数値として具体的に示していく取り組みについては、ＱＵアンケートを実施することで的確な教育相談活動ができる。

健康の保持・体力向上においては、部活動の充実を中心とした現在の取り組みの成果が表れていると考えられる。社会で力強く生きていく子どもを育成するという目標のために基礎となる学力の向上のための一層の努力が必要である。

2 今後の学校運営についての意見

* Q U アンケートについて作業は大変かもしれないが、継続して取り組んでもらえるようお願いしたい。

* I C T がもっと活用できるよう環境を整備してほしい。今回の新型コロナ感染症で学べない子どもたちのために無料のウェブサイトがたくさん開設されている。子どもたちは慣れているのだから、学校として工夫した取り組みをして学力を向上させてほしい。

* これからも生徒たちの安全・健康を第一として教育活動を展開してほしい。

* 学力の向上に一層取り組み、知・徳・体バランスよく子どもを育成してもらいたい。

* 今後も英語教育に力を入れてほしい。大学入試の方法は右往左往したうえに後退しているが、英検を活用するなど実用化の流れは変わらない。小学校との連携を含めて推進してほしい。

* 学校を選択するうえで部活動が重要になっている。これからも活動を活性化してほしい。

* 十三中は安心できる学校として評価が高い。来年度も子どもたちに寄り添い、新たに不登校になる生徒0人をめざしてほしい。

